

東武鉄道は高架下のスペースなどを活用し、埼玉県草加市や越谷市などに認可保育所を開設する。これまで駐車場などに使っていた場所に施設を建設し、事業者に賃貸。4月1日に開園する。いずれも東武線の駅から徒歩5分前後の好立地で、子育てしやすい環境をつくり、沿線の魅力を高める狙いだ。

保育所は東武スカイツリーライン（伊勢崎線）の松原団地駅（草加市）や北越谷駅（越谷市）の近くの高架下と、東上線

東武、高架下に認可保育所

草加 越谷 川越

の川越市駅（川越市）近くの保有地の計3カ所で、これまで駐車場や駐輪場に使用していた場所だ。同社が保育施設を建設し、社会福祉法人に貸し出す。

定員は各90人。月々土曜日に開所し、時間は保育所ごとに異なる。駅の近くに施設を設けることで、共働き家庭でも通勤

待機児童対策を支援

時に利用しやすくした。

なる。

同社の県内の保育所は既存施設を含め計4カ所に、同社が保育所を新設する3市は、県内でも待機



高架下のスペースを活用し保育所を開設（越谷市）

児童が比較的多い自治体。県の調査（2014年4月1日時点）によると、川越市は119人で、最多のさいたま市（128人）に次ぐ水準。草加市は74人で4番目に多い。越谷市は29人で、直近3年間は30人前後で推移している。

東武鉄道は待機児童の解消を目指す自治体と連携し、子育てしやすい環境を整備することで定住人口の増加につなげる。今後、保育所の設置など子育て支援を続けていく考えだ。

埼

玉

